

岐大通 2010



today's guest

大分トリニータ

2009 J1第17位

J2通算対戦成績 :0勝0分1敗

■2010成績

第0節 10/03/14 大分3-1岐阜

2010J2 順位表 ■第2節

(※消化試合が1少ない)

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の
戦績 岐阜から見て)

1	柏	58p	+30	48	18	H●
2	甲府	50p	+17	48	31	H●
*3	福岡	46p	+24	45	21	A○
4	千葉	42p	+20	47	27	A● H○
5	熊本	39p	-2	28	30	A● H△
6	徳島	38p	+5	40	35	A●
7	東京V	37p	+6	28	22	H● A●
*8	鳥栖	36p	+2	30	28	A●
9	栃木	34p	+3	30	27	A●
*10	横浜FC	33p	+2	38	36	A●
11	愛媛	32p	-4	21	25	H△
12	岐阜	32p	-11	22	33	---
13	札幌	30p	-3	26	29	H○
*14	水戸	29p	-8	20	28	H○ A○
*15	大分	26p	-9	30	39	A●
*16	草津	26p	-13	23	36	H○ A●
*17	岡山	20p	-18	14	32	H○
18	富山	20p	-20	28	48	H○ A●
19	北九州	14p	-21	17	38	A○ H○

次回 HomeGame

第2節

徳島ヴォルティス戦

10/3 (日) 18:00

@長良川球技メドウ

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

F C岐阜大好き通信 (岐大通)

9/23号

編集発行: 『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田靖造

■編集子より■

ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲ-ム」での発行を目標にしますので、
よろしくお願い致します。

◇結果は出した。しかし、その先は……。 岐阜 1-0北九州【第2節】

●F C岐阜は長良川で北九州と対戦し1対0で勝利。北九州の固い守りを突き崩せ無いまま0対0で後半へ。引き分けも覚悟した後半35分に野垣内選手のゴールがついに生まれ見事な勝利。これからはサポーターがF C岐阜の応援を。F C岐阜頑張れ!

(ハマッチ)

●最悪の結果は免れたが、内容はお粗末。そんなゲームだった。

キックオフ前の順位で岐阜は11だったが、得失点差がもう-11となっていたのだ。再三指摘しているように、チャンスを外し続けている「ツケ」が積み重なってこういうでかい「借金」になっている訳だが、中位陣は勝ち点が詰まっているだけに得失点差で順位の変動があるという状況だ。現在1勝しかしていないような最下位の北九州には、大量得点で勝利して一気に得失点を詰めたいところだったが、結論から言うと、北九州は順位ほど弱いチームではなかった。

キックオフ直後、シュートがポストに当たる決定機を作るなど、大量得点も予感させたが、前半をスコアレスで終えてしまう。判断、パスのテンポ、動き出しが「一歩」遅いため、フィニッシュまでいけなかったり、守備では中盤数の有利なうちにピンチの芽を摘んでおけばいいものを、持たれたり、あるいは展開されてしまい、ヒヤリとするシーンを作られることが何度かあった。決められないのが最下位にいる一因なのではあろうが。

後半もじれるような展開が続く。それにしても、これはアルゼンチンなら大ブーイングだろう。マイボール、特にリスタートなら取られる心配はないのに、なぜバックパスをするのか。目の肥えた南米のファンは分かっているから味方にもブーイングをするという。まだ日本ではそこまではサッカー文化が浸透していないのだろうが。

全て縦に入れるのが正解ではないが、リスクのないパスばかりをしても、点を取ることはできない。味方の動き出し、動きなおしがないとか色々な原因があると思うが、もっと「チャレンジする前へのパス」を出さないといけない。

また、この日のゲームではゴール前でいい形を迎えても再三の決定機でシュートミス、というシーンが見られた。上位争いをするようなクラブなら必ず決定的チャンスを逃さない、「したたかさ」をもっているものだ。ちょっとこの日はいくらなんでも逃しすぎだ。ゴールが決まらなければ勝つことは不可能なのだから。

スコアレスドローが濃厚となってきた後半35分、Qのチャンスから、ついに均衡が破れる。決めたのは直前に交代出場していた野垣内。前日に誕生日を迎えた男が、自らバースデーゴールを叩き込み、岐阜に先制点をもたらす。これでようやく停滞ムードが漂っていたメドウに活気が戻り、追加点こそ奪えなかったものの、そのまま試合終了。

何とか勝ち点3はもぎ取った。しかし、それ以外、収穫はないと言っていいだろう。今、筆者はこう考えている。おそらくこの日の北九州のように下位のクラブには「何とか勝ってしまう」力はつけている。しかし、サッカーの内容を細かく見ていくと、やはりまだまだ課題はたくさんある。J2で中位のところまではやってきた。さらにもう一枚、殻を破るためには、選手のレベルアップももちろんだが、チームとしてもレベルアップしなければならないと思う。今はそんな段階にきているのだと思う。

シーズン半ばのこの時期にサッカーの方向性を変えるのは現実問題難しいだろう。しかし、来シーズン以降も戦う相手なのだから、何か考えておくことはあると思う。目標は「J1以降」なのだから。

(小倉駅が北九州市にあると最近知った男)

●不毛な試合でも勝ち点3を得られた事でヨシですか…次戦以降でも結果を出し続けて勝ちパターンをゲットしよう!

(ミスター珍道)

●勝っただけ、という印象が残った試合。守備はガタガタ、攻撃は噛み合わず……相手に決定力があって、恭平のビッグセーブがなかったら結果は逆のものになっていたかもしれない。

メドウでは5月の柏戦以来負けていないけれど(リーグ戦のみの話)、1-0というスコアが多くいつも最後までハラハラさせられる。たまにはドッシリと構えてタイムアップ前に余裕でアイダが歌えるような試合を見せてもらいたいものだ。

(岐阜の誇り)

※2節・北九州戦については続きがあります。裏面もどうぞ!

◆悔やまれる、あの「数十秒」。 草津 2-1 岐阜【第 2 節】

●世間は 3 連休だが、自分は月曜日仕事だったため遠征を自重して TV での観戦。前半終了間際といういい時間帯に先制できて、いい流れで後半を迎えられると思ったのも束の間熊林のきれいな FK で同点にされてしまう。解説者の指摘通り、あの場面は恭平がニアサイドを空けすぎていたな。そして息つく間もなくラフィーニャの逆転弾を浴びてしまう。追い打ちを掛けるように吉本の 1 発退場……正直アレで 1 発赤はないだろうと思ったが。まあ他にひどい判定とかはなかったと思うので決して審判で負けた試合ではないと思う。

それにしても 1 点取られるとガタガタときてしまう精神面の弱さ、これは何とかならないものだろうか。ここを乗り越えていかない限りチームは強くない。ウチは得失点差で大きくマイナスになっている状態なので、勝ち続けていかない限り上位進出は望むべくもない。

あと気になったこと。今年ずっと通して言えることなのだが、佐藤洸一の体調が良くないのではないのか？昨日は西川と交代で投入されたわけだが、投入された時点での状況は把握しているはずなのに積極的にボールをチェイシングにいくようでもなく、何か気だるそうにボールを追っているように見受けられた。一昨年、昨年の洸一なら、もっと澆刺とプレーしていたはずなのに……もし、本当に体調不良ならチームの状態云々抜きにしてしっかり休ませてやるべきだと思う。

最後に草津の副島監督のコメントの中に、ウチのサッカーをしっかりとスカウティングされてる向きの発言があった。サッカーはスカウティングが全てではないし、元々発想性が求められるスポーツ。相手をアツと驚かせ裏をかくような想像力溢れるプレーを期待したい。（岐阜の誇り）

●前節を勝利で飾った岐阜と、天皇杯を含め 3 連敗中の草津。順位も岐阜の方が上。ここで勝てばシーズン当初目標の 10 位以内が狙えるという大事な試合…だった。

確かに、前半の流れは良かったと思う。選手はしっかり走っていたし、チームが機能して攻め込む場面が多かった。14 分に嶋田が、2 分と 42 分に西川が得点機を得たが、相手 GK 常澤のファインセーブに阻まれてしまった。それでも、前半終了直前に押谷が放ったシュートを GK が弾いたところに嶋田がヘッドで押し込んで先制！良い形で前半を終えることができた。ところが、だ。54 分、敵 M 熊林の意表を突いた FK で同点に追いつかれてる。いや、追いつかれたまでは、まだいい。その再開キックオフ直後、ボールを熊林に奪われて一気に攻め込まれ、ラフィーニャに逆転弾を決められてしまう。この間、僅か 20 秒。こういう「あつという間に失点する」って状況、今期は何度も見させられている気がするが…これは既にウチの「仕様」か？

そして今節は、逆転された直後に 2 枚の交替カードを切るが、その直後に吉本が敵 FV を引き倒して一発レッドで退場。その対応に最後の交替カードを切るという、悪夢の様な展開だった。精神的にも「若い」ということなのか、この脆さには、正直問題があると言わざるを得ない。その後も（時間はまだ 30 分あったのだから）落ち着いてまずは同点を狙えばいいのだが、相変わらず落ち着かない展開で悪戯に時間を費やしてしまう。味方の人数が少ないのだから、ショートカウンター主体の戦術が有効だと思うのだが、更なる失点を怖れて前に走らないのか、スタミナ切れで走れないのか、単発的な攻撃になってしまうし、安易なバックパスで相手に時間を与えたり、逆に中途半端なパスを奪われてカウンターを受けたりして、チームが機能していなかった。結局そのまま時間は過ぎ、試合終了。後半は僅かシュート 1 本に抑えられてしまうなど、散々な結果だった。選手達には猛省と奮起を期待したい。

さて、今節の大分戦には吉本は出られないし、恭平も累積警告で欠場となる。となると、どのような布陣で臨むのか気になる。チームの活性化を図るためには、思い切ったメンバー変更も必要ではないかと思うのは、僕だけだろうか。ともあれ、今度はホーム。ひたむきに走りきって勝つサッカーを魅せてほしい。（ささたく）

●前節に続いて情けない内容でした。それにしても中盤が無い！フォーメーションか選手のポジションかあるいはその両方に問題がありますね。試合は前半か後半初めにもう 1 点取れば流れは大きく変わったでしょう。吉本選手のレッドは厳し過ぎた気がします。秋田選手はバイシクルをはじめ獅子奮迅の活躍でした。今後の立て直しに期待します。（ミスター珍道）

●F C 岐阜はアウェイで草津と対戦し 1 対 2 で逆転負け。前半終了間際に嶋田選手のゴールが決まり 1 点リードして前半を終えるも後半に立て続けて 2 点を取られて逆転負け。上位進出のためにはアウェイでも勝ちきる強さが必要。これからサポーターが F C 岐阜の応援を。F C 岐阜頑張れ！（ハマッチ）

●アウェイで勝てませんね。先制したのに後半に立て続けて 2 失点で逆転負け、とかなり悔しい思いをしました。せめて引き分けに持ち込めばいいのですが、今日みたいな試合をやっているとお客さんが減る一方ですよ。選手達は頑張っていると思いますが、失点の仕方があれで、追加点を奪えないじゃ順位は上がりませんよ！久しぶりに試合後に怒鳴りました。選手達も悔しいと思っていますし、八つ当たりみたいな事なので言わないようにしていましたが、言わずにいられますでした。昨年みたいなひたむきさはどこへ行ってしまったのでしょうかねえ…チームを応援する気持ちは捨てませんが、かなり不安を感じます。（ブラウ@翠魂）

●岐阜が初めて公式戦（天皇杯）で対戦した J のクラブ。今さら、と思うけど草津とやる時は枕詞として、どうしても思い浮かべてしまう（苦笑）。J 参入後もしばらくは勉強させられたが、その後恩返しも済んでこの試合までのリーグ対戦成績は 3 勝 3 敗 1 分のイーブン。ただし、現在の順位は岐阜の方が上位なので、目標の一桁順位を目指すためにはどうしても落とせない試合だった。

前半終了間際までは、恭平も、草津の常澤もビッグセーブの応酬。特に常澤には優大の 2 発を始め 3 ～ 4 点くらいはジャマされた感じ。前節退けた北九州に、天皇杯で 1 - 3 と敗れた草津。現状そのままに岐阜が優勢に試合を進め、44 分という絶好の時間に待望の先取点。

しかし、結果は 1 - 2 の逆転負け。今季先制した試合は全勝だったが遂に記録も途絶えてしまった。内容的にはシュート数も多く、前述のとおり双方の GK の堅守が目立った試合。それだけ、双方にチャンスがあつての 1 - 2 だったし、これだけなら「惜しかった、残念。」と言いたいんだけど……。失点は公式によれば 55 分と 56 分。でも、アレは 55 分と 56 分でもイイくらい。草津の 2 点ともシュートは素晴らしかった。2 点目のラフィーニャのヤツなんかは、「行ってこ〜い」みたいな、だいたいこの辺だろう？と撃ったシュートが、バーだかポストだかに当たったような、たぶん本人もビックリのコースだし、同点弾も逆をつかれたとはいえ飛んだコースが絶妙。いずれにせよ、恭平にはノーチャンス。その後の吉本の赤は、「厳しいなあ。」と言えなくもないが、出されてもしかたがないレベル。逆転するため 2 人同時に入れ替えた直後で、ウチにとっては実にキビシイ展開となった。

ただ問題は、ポンポンとあっさり失点してしまう体質というか氣質というか。局面が動いた後、その場を落ち着かせる選手の不在。勝ち越された場面は、前節北 Q 戦の試合開始直後に見せたアタックを仕掛けて、奪われたと思ったら、ほとんど無抵抗でそのまんま失点。同じようなケースは今季は何度目だろう？目標を達成するためだけではなく、プロとしてこれ以上繰り返してもらっては困る。ぜひ肝に銘じてほしい。逆転された後は、数的不利の中、精一杯走ってくれたけど、疲れのせいか精度が足りず。今はまだ、再逆転するまでの力がない、ということか。ガマンだね。

ところで、この試合で恭平が黄紙を受け、警告の累積で次節は出場停止。ここまで全試合に出場してきた守護神の不在は大きな痛手。それでも、同じくずっとベンチ入りを果たしてきた村尾がついに J のデビューを迎える。村尾のためにも、恭平のためにも必ず勝ちたい。アウェイでは悔しい思いもしたし、いつも以上にサポートしなきゃね。（ぐん、）

※ 2節・北九州戦の続きです。

●試合終了後に、仲間たちと（そして僕も）異口同音に苦笑しながら「勝てて良かった」と喜んだ。これが、この試合を（僕としては）簡潔に表した言葉だった。
キックオフ直後の押谷の奇襲。ポストに弾かれてしまったあのシュートが入っていたら展開は大きく変わったかもしれないが…。半年近くリーグ戦では未勝利だが、先週の天皇杯2回戦で草津に勝利して自信が付いたのか、北九州は積極的に動いてボールを奪いに来ていたし、良い流れで攻めていたと思う。一方の岐阜は、前半は何とか対応できていたが、後半になると（最近は毎回、このフレーズを使っている様な気がするのだけれど）自分たちの中途半端なパスミスからボールを奪われる事が多くなり、徐々に押し込まれていたと思う。

確かに、今節は積極的にシュートを狙い、18本も撃った事は非常に評価できる。今までの平均が7本弱だったはずだから、3倍近く撃った事になる。しかし、枠を捉えたシュートは多くなかったし、「決定機」という場面で言えば、下手をする

と敵の方が多かった気がする。相手が上手かっただけではなく、こちらがゴール前でどフリーにさせていた場面も。つい「相手が北九州で助かった」、そんな事を思ってしまった。とはいえ、試合終了間際のセットプレーから、野垣内のヘッドで値千金の決勝ゴール。ジリジリしていたスタジアムが歓喜に爆発するのは、やはり気持ちいいものだし、まだまだ混戦模様のリーグ戦では、勝ち点3は大事な結果。北九州で頑張っている、「あの」池元友樹も出てきたし、その点は満足できたと言えるかも。

ちなみに録画で確認したのだけれど、野垣内のインタビュー時の表情→エイデン賞が貰えなかった時の落胆ぶり＆貰った吉本のドヤ顔…は、コントみたいで大爆笑でした（笑）。まあ…AVだったらアリかもしれないけれど、DFでヘッド一発しか仕事してないと、難しいかもしれないよね（苦笑）。（ささたく）

●9月に入ったというのに暑さはいっこうに控えめになる気配も見せず、入場を待つ身には熱中症対策も必須な厳しい天候。それでも、K.Oを迎える午後4時ころには少し日差しも和らいできて、最下位の北九州に内容結果とも圧倒し先輩としての意地を見せたかったけれど、最終的には1-0の辛勝。ゴールデン・ウィークのアウェイ戦同様最小得点で終わってしまった。しかも、第三者的には北九州のシュートの精度に救われたような内容。MVPは吉本だったが、この試合に限らず吉本や恭平の活躍ばかりが目立っているような気がしてならない。中盤真ん中に橋本と池上を配し、ようやくなじんできたところでのマタドールの故障離脱はかなりの痛手。それでも、今季は倉田監督の方針もあり、複数のポジションを経験している選手も多く、レギュラー不在は逆に言えばチャンスのはず。シーズンも三分の二が過ぎようとしているこの時期。生き残りを賭けて、これからもできるところを見せなければならぬ。

そのための最重要課題は「勝利」であることは言うまでもない。J2というステージで、勝つためには何が必要か？今季、ここまでの試合の中で得た経験を生かし、さらなる高みをめざしたプレーを見せてほしいと切に願う。

（ぐん、）

◇【ユース】

今年のリーグ戦での戦いを終えました。

●F C岐阜のアカデミー組織であるユースU-18（以下ユース）は9月11日（土）に麗澤瑞浪高校と対戦し4対2で勝利、9月18日（土）に中京高校Bと対戦し4対0で勝利し、通算3勝6敗の勝点9でリーグ戦を終了しました。県協会のHPが「第7節以降の試合結果をアップしてくれない」と「第6節の結果が間違っている」ので最終結果（＝残留出来たか）は不明です（怒）。まあ焦ってもしようがない。ドキドキしながら結果発表を待つしかないですね。

また、彼らはこの後Jユースカップを戦います。ユースチームが参戦する「予選リーグEグループ」の参加チームは他にアビスパ福岡、セレッソ大阪、ジュビロ磐田。……って、歴史のある強豪チームばかりですね（汗）。初戦は9月26日（日）14時に中津川公園競技場でアビスパ福岡U-18と対戦します。福岡は昨年このJユースカップの予選リーグで対戦し、大敗した相手。胸を借りるつもりで果敢に挑んで貰いたいです。頑張れF C岐阜ユース！！（シュナ）

◇【セカンド】

残念ながら「昇格」はお預けに。

●9月19日、セカンドの試合を観戦に豊田の中京大学へ行ってきました。対戦相手のChukyo Univ. FCというのはその名の通り、中京大学の学生さんのチーム（3軍相当？）です。中京大学は初めて行きましたが、物凄く立派な校舎でした。校舎も立派でしたが、スポーツに力を入れている大学らしく、敷地内に陸上競技場、サッカー場、フットボール場、おまけにスケートリンクまであるじゃん……。と目移りしながら駐車場から歩いていたら、危うく試合開始に間に合わなくなる所でした（自爆）。

試合は12時にキックオフ！前半10分くらいで横山選手が突然の故障で戦線離脱となってしまいます。セカンドにとってこれが一番の誤算だったのかな？前半を何とか0対1で終了。後半15分くらいに同点ゴールを決めますが交代選手がこの日2名しかいなかったセカンドは学生さん達の豊富な運動量に圧倒され、攻め込まれる時間がだんだん多くなります。そして何とか引き分けで勝ち点1かな？と思っていた終了間際に相手に見事なゴールを決められて万事休す。1対2で敗戦となりました。セカンドはこの日勝てば2試合残して昇格圏内確定だったのですが、残念ながら次節以降に持ち越しとなりました。因みに対戦相手のChukyo Univ. FCはこの試合を勝利した事により昇格に望みを繋ぐ事が出来たようで、勝利の瞬間の喜びようは見ていて微笑ましかったです。

（シュナ）



本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

ALADDIN

何も無い店だけど・・・心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・心　癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合
アットホームな韓国料理店
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅
から徒歩3分。
休：日曜日
（今日は営業しています）



長良川球技 メドウを10倍楽しむ方法

みんなの手拍子で



選手に力を!
～ご協力お願いします～

タオマフ大作戦!



選手入場時 ... 高く掲げよう
ゴールチャンス ... 大きく振り回そう

ここ長良川球技メドウでは、太鼓などの鳴り物を使った応援ができません。しかし、選手の息づかいが聞こえそうなほどグラウンドまでの距離が近く、目の前で繰り広げられる真剣勝負にきっと気持ちは高まるはず。ウズウズしてきたら「手拍子」や「タオマフ」(タオルマフラー)で選手を勇気づけましょう。たとえひとりのアクションは小さくても、隣の人と、前後の人と、みんなでいっしょに応援すれば、大きな力になって、選手だけでなくあなたのハートもさらに熱くさせること間違いなし。「メドウ劇場」では、観客のあなたも大切なキャストなのです。

1人でも多くの方に楽しんでいただくために

席をつめてお座りください



↑ 荷物は足元をご利用ください

通路での観戦は ご遠慮ください



小さなスタジアムなので、席もスペースも限られています。みんなが気持ちよい時間を過ごせるように、ひとりひとりがマナーを守って観戦してください。